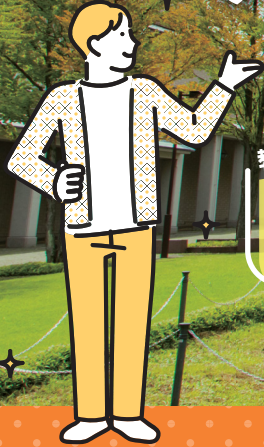


深い学びにつなげる[スタディプラス]

Study+ Vol.10

2023.SPRING

あなたの声で授業が変わる！



教員インタビュー

授業の工夫・改善レポート

結果報告！

全学共通科目の授業に関するアンケート

学生広報チームが行く

STAインタビュー



教員インタビュー

授業の工夫・改善レポート



理系共通基礎科目

生物学概説ⅠA

学生自ら学びを深める。その力を養う場としての、基礎科目を提供。

はやし ふみお
林 文男 教授
(理学部 生命科学科)

コロナ禍で幅広い学科の学生が履修する「生物学概説ⅠA」を担当した林先生。主に1・2年生が履修する基礎科目の授業を通して、「大学での学び方」も理解してもらうための工夫などについて伺いました。

「生物学概説ⅠA」はどのような授業でどのように進めていますか？

この授業は全学科の学生を対象とした基礎科目で、江口 克之准教授と共同で担当しています。前半は江口先生が主に生物の多様性、種分化、系統分類、地理的分布について解説し、後半は私が主に個体群、生物群集、生態系、環境問題について解説するという内容です。本学に入学してくる学生の多くが高校在学中に生物を履修しておらず、この授業に臨むことになります。そこでポイントとなるのが言葉の選び方です。私の授業では生物学の専門用語は極力使わず、一般的な言葉で授業を行うよう努めています。また100名以上が履修しますが、コロナ禍ではZoomも活用して授業を行いました。大人数の授業なので質問を受け付ける時間に多く割けないのが難点ですが、大教室で遠くの黒板に目を凝らすよりも画面に集中できるという意味では、学びやすいと感じました。

授業ではどのようなことに取り組み、どのような改善を行っていますか？

私の授業では、予習は行わずに臨んでもらうことを心がけています。テキストの代わりに簡単なプリントを用意し、授業ではそれをベースに講義を板書する形式で進めていきます。その中でたとえばリュウキュウコノハズクの画像などを見せると、学生たちは興味を持ってくれます。パワーポイントを使って行う授業は聞いている間は非常に楽しいのですが、授業が終わると内容をあまり覚えていない、ということも少なくありません。それよりも、自分自身で筆を進めることで内容を理解し、自分なりの疑問や新たな興味を見つけてもらうことが大事だと思っています。大切なのは、学生の自主性を重んじることです。私は授業の中ですべてを説明するわけではありませんが、そこで教える内容はすべてヒントだと考えています。実際に授業で学んだ動物の行動原理をきっかけに、「人間にも応用できますか」等、私の所へ質問に来る学生もいました。この授業を通して「学んだ知識を起点に、新たな興味を深めていく」という大学での学びも身につけてほしいと思っています。



リュウキュウコノハズク

授業を履修する学生に伝えたいメッセージはありますか？

基礎科目ですから、「ここで学んだ生物学の知識をしっかりと身につけなさい」ということが授業の第一義だとは考えていません。皆さんはそれぞれの専門分野を深めるために入学した大学生なので、私が授業で話したことを自分なりに消化してもらえればいいと思っています。その上で修得してほしいのは、理論的な全体像の捉え方や、知識を紐付けたり統合する能力です。生物学とは直接関係のない文系の学生であっても、ここで学んだ発想の方法や何が真実なのかを見極める視点というのは、自身の専門分野を深めていく際に大いに役立つのではないのでしょうか。

林先生への
一問一答

Q 動物生態学に興味を持った理由は？
A. 小学生時代から虫が好きで、飽きることはありませんでした。

Q どんな学生生活を送っていましたか？
A. どの授業でも興味がある分野との関連を見つけて学ぶようにしていました。

Q 何をモチベーションに勉強に励んでいましたか？
A. 昆虫学者になることが目標だったので、論文発表に必要な語学や昆虫が登場する文学など全てに興味がありました。

Q 休日の過ごし方は？
A. 休日という感覚を持ったことはありませんが、山歩きや旅行が好きです。

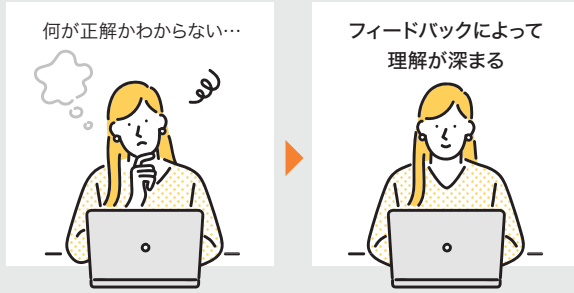
2022
年度版

全学共通科目の 授業に関するアンケート 結果報告

このアンケートは、授業担当の先生と学生の皆さんを対象に実施しています。授業担当の先生には、学生の意見等を受けて行った授業改善の取り組みを回答いただき、学生の皆さんには、授業を受けて思ったことや気づいたことを回答いただいています。これらの回答結果を学内で把握・共有することで、本学の教育改善につなげています。ここでは、アンケート結果の一部について、簡単に紹介します。

学生の皆さんからの意見を元に **先生も工夫をしながら授業をしています!** ※1

1 フィードバック



基盤科目群

オフィスアワーを設定し、提出物のフィードバックをすることで、利用した学生の理解が深まり、授業の取り組み方にも変化があった。

理系共通基礎科目

演習問題の模範解答を選び、内容を添削・コメント付きで公開した。

教養科目群

学生に、互いの成果(プレゼンテーションなど)を評価する観点を与えて評価に臨んでもらうピアレビューを取り入れることで、学修のゴールを意識させることができた。

2 板書・スライド

教養科目群

学生から「講義の速度が速い」「板書を書き写す時間がない」等の意見があったため、重要な点は意図的に繰り返し話したり、進行を遅らせたりするなど調整した。

未修言語科目

模範解答はパワーポイントのアニメーション機能を使ってスライドに埋め込むことにより、学生が解説を目で追いながら概要を把握できるよう工夫を行った。

理系共通基礎科目

スライドの内容を書き込み式のプリントにして事前に配布しているが、昨年度のアンケートに書かれていた「書き込み箇所明示化」の意見を取り入れて、より分かりやすい形のプリントに修正した。



3 授業の工夫



実践英語科目

英会話の練習時に、学生が教室内を自由に歩いて相手を探すことにより、授業にメリハリがついた。

実践英語科目

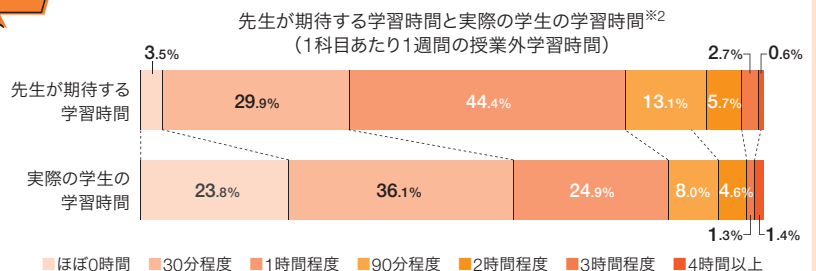
kibacoを活用して、授業の難易度や内容に関するアンケートをとり、次回の授業に活かした。

基盤科目群

複数の教員で担当しており、授業内に教員同士の対話を取り入れたところ、学生の理解を深めるのに有効だった。

授業時間以外の学習を見直してみましょう!

授業担当の先生と学生それぞれに、授業外での学習時間について聞きました。比較してみると、先生が期待している時間数と実際に学生の皆さんが学習した時間数に差があり、学習時間が不足していることが分かります。予習は授業の理解を助け、復習は授業で得た知識・技能を定着させます。与えられた課題に取り組むだけでなく、しっかり準備をし、より主体的に授業に臨んでみましょう!



※1・2・4 授業改善に関するアンケート 教員回答
前期▶授業科目数353クラス 実施数259クラス 実施率73.4%
後期▶授業科目数335クラス 実施数259クラス 実施率77.3%

※2・3 授業改善のためのアンケート 学生回答
前期▶履修登録数20,643人 回答数6,731人 回収率32.6%
後期▶履修登録数15,398人 回答数4,718人 回収率30.6%



学生に聞きました※3 / 全学共通科目で身に付いた能力 ベスト3

本学のディプロマ・ポリシーで定める9つの能力のうち、各科目において修得・向上できた能力を複数回答で聞いた結果を集計しました。

1位

幅広い教養としての知識



59.1%

2位

専門的な知識・技術



50.3%

3位

論理的思考力



25.8%

あまり身に付かなかった能力

社会人になると、専門的知識以外にも様々な能力が必要になります。在学中から社会で活躍することをイメージし、修得することを意識してみましょう！

倫理観・社会的責任の自覚

9.5%



能動的学習姿勢

16.4%



総合的問題思考力

18.4%

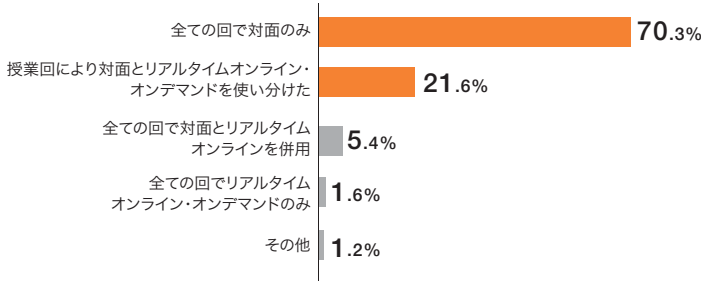


先生に聞きました※4 / どのような授業をしていますか？

Q.1

どのような形式で授業をしましたか？

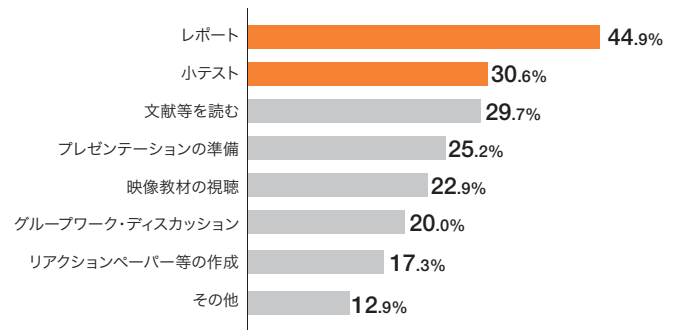
A 昨年度に比べてほとんどの授業が対面形式に戻りました。



Q.2

授業時間以外の学習としてどのような課題を課しましたか？

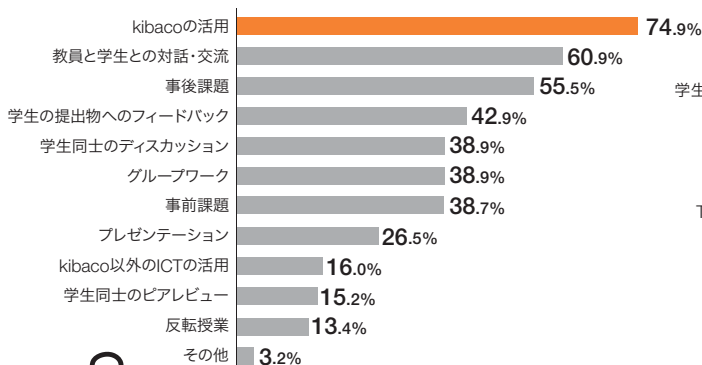
A 先生はレポートや小テストによって、学生の皆さんの知識を確認し、その定着を図っています。しっかりと取り組みましょう。



Q.3

授業にどのような要素を取り入れていますか？

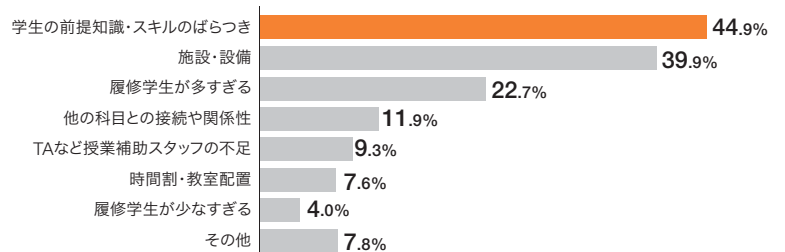
A kibacoは、7割を超える授業で活用されています。



Q.4

授業を進めていく上で課題となっていることはありますか？

A 学生の前提知識やスキルのばらつきに課題を感じながらも、それぞれの学生が主体的に学べるよう励んでいます。



皆さんの学習環境についてお知らせします！



コンセント付き自習スペースのご案内 (南大沢キャンパス)

6号館、9号館、12号館にコンセント付きの自習スペースを設けています。また、図書館でもコンセント付き閲覧席にて自習が可能です。座席に限りがありますので、譲り合ってください。



教室空調の運用改善に取り組んでいます

新型コロナウイルス感染防止のため、換気をしながらか教室の室温に応じた弾力的な空調運転となるよう対応しています。

これからも学生の皆さんとともに授業を作っていきます。ぜひアンケート回答にご協力ください！



Study+ Interview

STA インタビュー

「精神神経科学」(人文社会学部専門教育科目)の教育補助を担う
STA(シニア・ティーチング・アシスタント)の松橋さんに、
活動内容を聞いてみました。



STAってどんな人?
素顔に迫ってみました

まつはし けんご
松橋 憲吾 さん

人文科学研究科 人間科学専攻
言語科学教室 博士後期課程3年

Kengo Matsuhashi

Q.1 STAの活動内容を教えてください。

A. 配布資料の準備や出欠管理のほか、授業の中で受講生が指定された英語論文を読み解き、内容をスライドにまとめて紹介する機会があるため、そのサポートをしています。論文紹介の1週間前から発表者とミーティングを行い、内容だけでなく発表方法やプレゼン資料の作り方などもアドバイスします。

Q.2 学生に指導する際に 気を付けていることや、 心掛けていることは何ですか?

A. インプットして理解すること、自分の言葉で説明することは違うため、本人が分かったつもりでも自分の言葉で説明できていない部分を見つけ、指摘するよう心掛けています。また、答えを教えすぎないことにも気を付けています。

Q.3 学部時代に同じ授業を受けていた際、 論文紹介で苦学した経験はありますか?

A. 先生から自分がきちんと理解できていなかった部分について質問をされ、言葉につまってしまった経験があります。先生を前に、担当の論文内容について紹介する場はかなり緊張感が漂うので、学部生が失敗しないように、また、ポジティブな気持ちで終わることができるように手助けできればいいなと思っています。



1週間のスケジュール

月曜日	在宅
火曜日	・「精神神経科学」のSTA業務 ・指導教官との面談(研究に関する進捗報告等) ・研究室のゼミ活動
水曜日	研究室のゼミ活動
木曜日	学外の勉強会に参加(自然言語処理の基礎を学ぶ)
金曜日	学外の勉強会に参加(精神疾患に関する様々な論文を紹介しあう)
土曜日	・論文執筆 ・データ解析 ・実験準備 ・勉強会の資料作成等
日曜日	在宅



神経発達症の認知機能の神経メカニズムに関心があり、発話運動や聴覚認知に関する基礎研究を行っています。

Q.4 STAの経験はどのように 活かしていますか?

A. 論文紹介の指導をするにあたり、様々な分野の論文を読んだり勉強したりすることで、自身の研究分野についても多角的な視点を得ることができています。



Q.5 大学での学びについて アドバイスをお願いします。

A. 大学での学びは、明確な正解がない難しい問題と向き合う大切な機会です。問いと向き合い続けることは苦痛に感じるかもしれませんが、授業の内容を自分事として捉え、自分なりに工夫して乗り越えることで、社会で求められる「自分で考える力」が身に付くと思います。また、学んだことを他人から借りた言葉ではなく、自分の言葉で説明できるようになることが大事なので、基盤となる知識に加えて、説明する力も養う努力をしましょう。

Q.6 これからSTAと関わる学部生に メッセージをお願いします。

A. STAに声をかけることで、学部生の皆さんが抱えている問題が解決したり、授業内容に関心が持てるようになったりするかもしれません。私たちも学部生に質問をされることで新たな気づきを得ることが出来ます。大学院生であるTA、STAに声をかけることに緊張している学部生もいるかもしれませんが、共に学ぶ仲間として、ぜひ気軽に声をかけてください!



編集後記



知識をもとに自分なりの答えを導き出していくことが求められる大学での学びにおいて、自分の見解を伝える相手を意識する大切さを実感しました!

あや さくらこ
綾 桜子 人文社会学部人間社会学科 2年

※教員・在学生の所属・学年等は2023年3月時点の情報です。

